

令和六年度大会宣言

令和元年度末に発生した新型コロナウイルス感染症は、昨年五月に五類感染症に移行され、学校教育活動への制限はほぼ解除されましたが、引き続き、時々の感染状況に応じた対策を講じていくことが必要です。昨年の愛知大会は三年ぶりに、集合開催が実現しました。今年度も全国各地から滋賀県に参集して開催します。昨年の大会では、一部オンラインを取り入れ、その中で、会員相互の研鑽を深めることができました。学校現場においては、新しい高等学校学習指導要領の実施、スクールポリシーの公表、観点別評価の導入、GIGAスクール構想に基づく一人一台端末の活用により、個別最適化され創造性を育む教育が始まっています。今後の学校教育は、真に必要な教育活動を回復させるとともに、多様な教育実践の工夫を取り入れ、「令和の日本型学校教育」の構築を目指し、新しい学びへと進化を図っていくことが重要です。

昨年六月十六日に「第四期教育振興基本計画」（令和五年度～九年度）が閣議決定されました。将来の予測が困難な時代において、未来に向けて自らがグローバル化する社会の創り手となり、課題解決などを通じて、持続可能な社会を維持・発展させていく人材の育成が重要であり、「人への投資」が必要です、多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じることも、地域や社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態にあるウェルビーイング、日本社会に根ざした調和と協調に基づくウェルビーイングの向上を目指す教育が大切です。

一方、学校における働き方改革は、本年五月二十四日、中央教育審議会より、「令和の日本型学校教育を担う質の高い教師の確保のための環境整備に関する総合的な方策について（審議のまとめ）」が公表されました。その中では、学校教育の質の向上を通して、全ての子供たちへのより良い教育の実現のため、『学校における働き方改革の更なる加速化』、『学校の指導・運営体制の充実』、『教師の処遇改善』を具現化していくことが盛り込まれました。これらの動きについて、今後の推移を見守っていく必要があります。

このような中で、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善、探究・STEAM教育、文理横断・文理融合教育、誰一人取り残されず全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育、地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育を推進し、教育デジタルトランスフォーメーション（DX）、校務DXを通じた働き方改革、教育データの分析・利活用の推進を学校は行っていく必要があります。

私たち教頭・副校長は、高い識見と広い視野を持ち、常に教育行政の動向を注視しつつ、様々な教育課題の解決に向けて率先して行動し、リーダーシップとマネジメント力を発揮していきます。そのために、研究・研鑽に励み、その成果及び経験と体験を共有し交流する機会を持ち続けます。また、学校運営組織の中心となる人材を発掘・指導・育成し、支援スタッフも活用し、学校の活性化・特色化を図り、よりよい社会づくりに参画する力を育てる教育を推進する覚悟です。

これらのことを銘記し、もって高校教育の充実・発展を期し、次の事項の実現に尽力することをここに宣言いたします。

- 一 多様な人々と協働できる心豊かな生徒を育てる、安全・安心な学校の整備と維持
- 一 希望の持てる社会の創り手として Society 5.0 の社会で活躍できる生徒の育成
- 一 持続可能な教育指導環境の整備、教育DXの推進と学校組織を担う人材の育成
- 一 教頭・副校長の研究・研鑽の確保、経験・体験を共有する機会の維持と推進

令和六年八月一日